

令和2年度 群馬県の決算をお知らせします

一般会計決算



問い合わせ先 県庁財政課

☎027-226-2098

※詳しくは、県ホームページからご覧ください



2年度の決算規模は、新型コロナウイルス感染症への対応などにより歳入・歳出ともに前年度を大幅に上回りました。

歳入 総額 8,664億円

前年度に比べて1,100億円(14.5%)増加しました。

これは、新型コロナウイルス感染症関連の国庫支出金(921億円の増)や税率引き上げのあった地方消費税清算金(159億円(21.9%)の増)が増加したことなどによるものです。

県税収入は、地方消費税が税率引き上げの影響により増加した一方、新型コロナウイルス感染症の影響で法人の県民税および事業税が減少したことなどにより12億円(0.5%)減少しました。

歳出 総額 8,425億円

前年度に比べて944億円(12.6%)増加しました。

これは、補助費等が新型コロナウイルス感染症への対応や地方消費税清算金支出・交付金の増などにより873億円(44.1%)増加したこと、また災害復旧事業費が令和元年東日本台風に係る事業費の増などにより81億円(147.3%)増加したことなどによるものです。

県債残高

県の借金である県債の年度末残高は、前年度に比べて344億円(2.7%)増加しました。

このうち臨時財政対策債を除いた県債残高は、前年度に比べて306億円増加しました。

中期財政見通し

新型コロナ対策や少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増加など、地方財政を巡る環境は厳しさを増しています。こうした中で中・長期的な視点を持ち、持続可能な財政運営を行っていく必要があります。

そのため、県では中期財政見通しを作成し、現在の状態が継続した場合に、今後の県の財政がどうなるのかを推計しました。

今後の財源不足の推計

新型コロナウイルスの影響による歳入の減少などで、3年度は財源不足が拡大し、4年度以降も少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増加や公債費の高止まりなどで、毎年200億円を超える大幅な財源不足の継続が見込まれています。

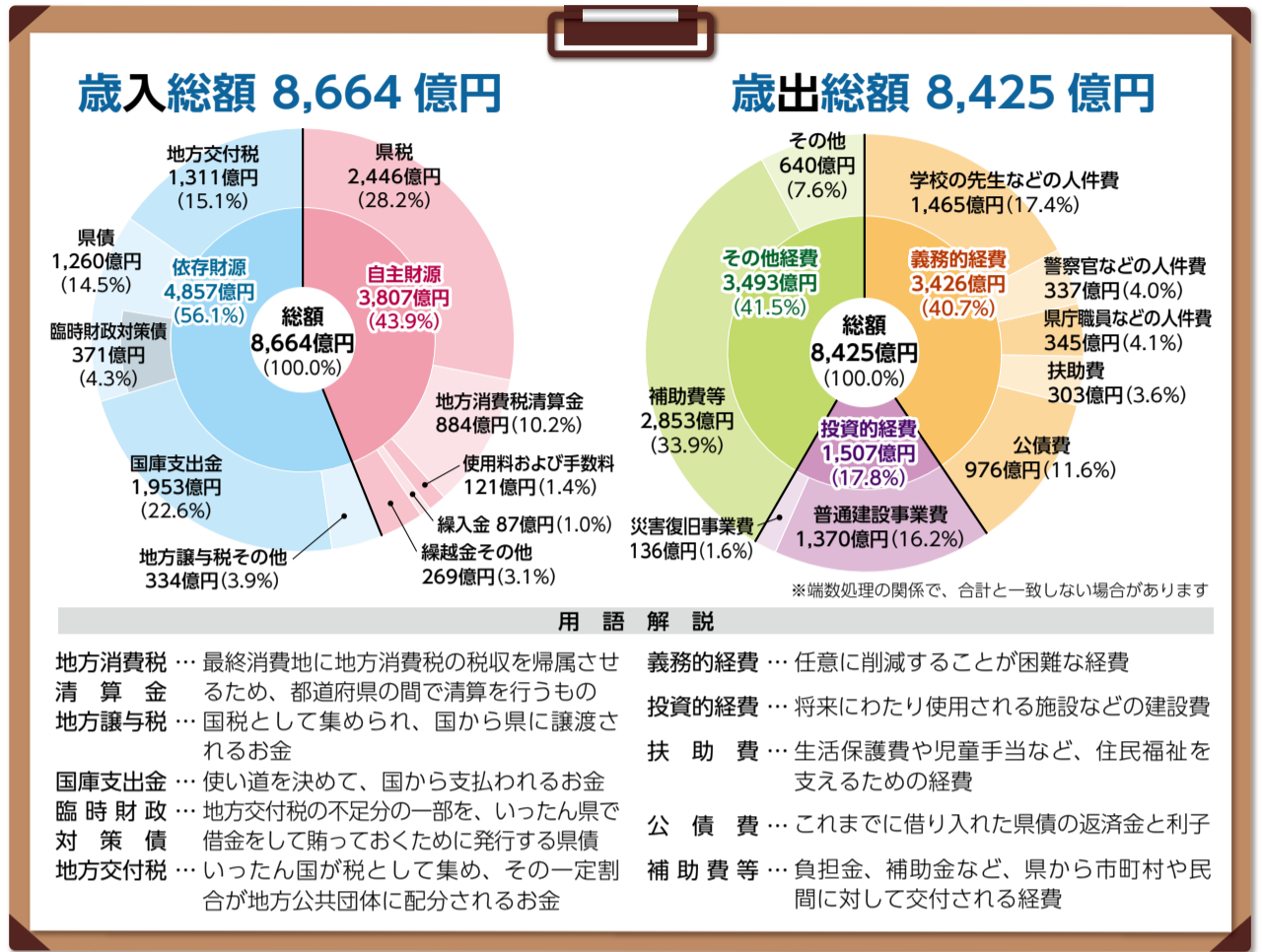
財源不足額解消のために基金を取り崩した場合、積立基金(貯金)は枯渇し、大規模な災害が起きた場合などに対応しきれなくなります。

さらに、貯金を取り崩してもまだ足りない分を県債(借金)発行で賄った場合、県債残高は高止まりが続き、将来にわたり県債の返済に予算が割かれます。その分、医療・福祉、教育・子育て、道路などのインフラの維持・整備といった県民サービスに使える予算が減少してしまいます。

今後の対応

県は行財政改革を通じて財政の健全性を確保し、積立基金の取り崩しや県債発行に頼らない財政運営を目指していきます。

【推計の考え方】… 税収の水準や制度、県の判断で決定できる歳出(裁量の経費)の規模などが現在の水準で推移したものと仮定して推計



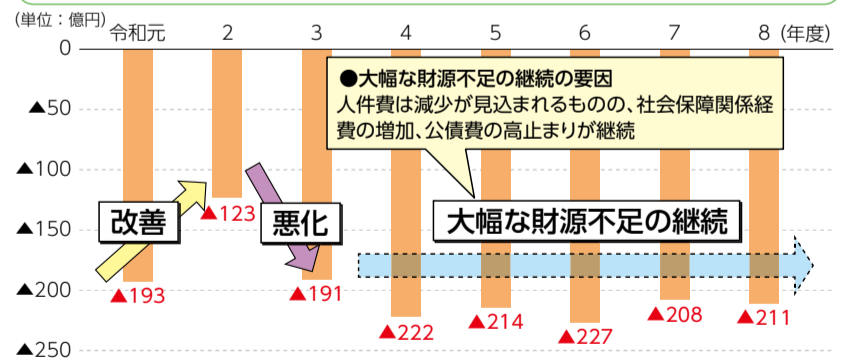
決算の概要

(単位: 億円)

	2年度	元年度	前年度比(%)
歳入総額 A	8,664	7,564	14.5
歳出総額 B	8,425	7,482	12.6
歳入歳出差引 C = A - B	239	83	189.2
翌年度に支払うことが決まっているもの D	82	49	69.0
実質収支 E = C - D	157	34	360.8
3年度中に国へ返還予定のコロナ関連国庫支出金除き	54	34	58.8
積立基金残高	184	139	31.6
県債残高	13,071	12,727	2.7
臨時財政対策債	5,630	5,592	0.7
臨時財政対策債以外の県債	7,441	7,135	4.3

※表示単位未満を四捨五入しているため、前年度比が一致しないものがあります

今後の財源不足額の推計



積立基金残高・県債残高の推移と見通し

